

施策33 地域間交流の推進

作成日：平成21年7月24日 主管課名：企画政策部活力推進課

| 施策名称 | 主管課 | 施策の対象 | 施策の対象指標 | 施策の意図 | 施策の成果指標 | 実績値 (H17) | 実績値 (H18) | 実績値 (H19) | 実績値 (H20) | 単位 | 目標値 (H20) | 目標値 (H21) | 目標値 (H22) | 取得方法 | 指標取得 主管課・係 | 算定式・取得先等 | 施策の20年度目標達成度とその要因 | 施策の22年度目標達成に向けての課題 |
|-------------|-------|-------------------|---|--|--------------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----|------------------|------------------|------------------|-------------|---------------|---|---|--|
| 33 地域間交流の推進 | 活力推進課 | 市民 姉妹都市 自治体 | 人口(17年3 月末住民基本 台帳人口+外 国人登録人 口) 姉妹都市数 都市間交流 を実施してい る自治体数 | 交流して異文 化を理解し、共 生できる 視野を広げ、 文化的・経済的 活動に生かす | 外国人に対して 周囲の理解があ ると感じる市民の 割合 | 24.6 | 21.2 | 20.8 | 24.7 | % | 成 22.0 目 27.0 | 成 22.0 目 29.0 | 成 22.0 目 30.0 | 市民アン ケート | 活力推進課 | ・H20市民意識調査で取得 (問14)あなたが日常生活をす るうえで、日頃、どのように感じ ていますか？ 外国人に対 して周囲の理解がある と思う(4.3%) どちらかといえば思う(20.4%) | 平成21年3月末の外国人登録人口は286人であり、市民アンケート結 果では、外国人に対して周囲の理解があると感じている市民の割合は 20年度の目標値が27.0%に対して、24.7%となっており、目標値は達成 していない。 その要因は、市内に在住する外国人が少ないうえ、水産製造業への 研修生などのため市民が交流する機会が少ないことが考えられる。 | (国内の都市との交流促進) ・20年3月25日に設立したサンリクオオファナ共和国 経済協議会を中心に、銀河連邦経済連絡協議会が 実施するホームページ事業、特産品カタログ事業及 びサガミハラ共和国経済協議会が実施する「さんま まつり」等のイベント事業、市場の駅に開設されて いる銀河連邦コーナー事業等に積極的に参画して いく必要がある。 |
| | | | | | 都市間交流事 業に参加した市民 の数 | 432 | 545 | 555 | 378 | 人 | 成 500 目 550 | 成 500 目 550 | 成 500 目 550 | 業務取得 | 活力推進課 | ・最上町との経済交流、銀河連 邦との児童・経済交流、相模原 市からのマラソン大会交流、グ リーンツーリズム交流等、活力 推進課で把握できる事業参加 者数を合算する。 | 都市間交流事業に参加した市民の数は、19年度実績555人を大きく 下回り、また、目標値550人に対し、20年度実績が378人で目標値を達 成していない。 その要因は、最上町との児童交流を19年度で終了したことにより最上 町との交流人口が19年度に比べ223人減となったことによる。 経済的な交流を行っている自治体数は、20年度は5団体(最上町、相 模原市、能代市、佐久市、肝付町)で19年度と同様、20年度の目標値を 達成した。 | ・最上町との児童交流については最上町との協議 により、20周年を区切り平成19年度で終了した。 今後は、可能なところから両市町の民間組織や各 種団体の関係者を引き合わせ、互いに行き来をし ながら交流してもらうよう誘導するとともに民間事業 者を引き合わせるなどして経済交流を促進していく 必要がある。 |
| | | | | | 経済的な交流 を行っている自治 体数 | 2 | 5 | 5 | 5 | 団体 | 成 3 目 5 | 成 3 目 5 | 成 3 目 5 | 業務取得 | 活力推進課 | ・最上町、相模原市、能代市、 佐久市、肝付町を指す。 | ・平成20年度の予算編成方針では、予算の水準を抑制し成果の維持・ 向上を図る施策に位置づけられているが、最上町との交流事業が19年 度で終了したことから、施策総コストは大きく減額となった。 ・海外との姉妹都市提携は、スペインのバロス・デ・ラ・フロンテラ市と 行っているが、現在は交流が停滞している状況である。姉妹都市提携を きっかけに平成5年に設立した国際交流協会も、会員の減少等により、 会員主体の自主的活動が停滞しており、現在活動の活性化に向けて体 制整備に取り組んでいる。 ・銀河連邦交流は、相模原市民桜まつり等のイベントで銀河連邦物産展 を開催するなどの経済交流を進めてきたが、19年度に銀河連邦経済連 絡協議会が設立され、ホームページ事業、特産品カタログ事業等が、 また、サガミハラ共和国経済協議会事業として「さんままつり」等のイベント 事業、「市場の駅」に開設されている銀河連邦コーナー事業等が実施さ れ当市の特産品が販売されている。これらの経済交流事業に参画し、 銀河連邦を通じた地域経済の活性化を図るため21年3月25日に当共和 国の経済協議会を設立した。 ・最上町との交流は、旧三陸町から大船渡市に引き継いで、児童交流 や特産品販売交流などが行われているが、児童交流について20周年を 区切り19年度で終了した。今後は、可能なところから両市町の民間組 織や各種団体の関係者を引き合わせ、互いに行き来をしなが交流し てもらうよう誘導するとともに、民間事業者等を引き合わせて経済交流 を促していく。 | (国際理解の促進) ・国際交流協会などを通じ外国人との交流の機会を 多くする必要がある。 |

| 基本事業名称 | 主管課 | 基本事業の対象 | 基本事業の対象指標 | 基本事業の意図 | 基本事業の成果指 標 | 実績値 (H17) | 実績値 (H18) | 実績値 (H19) | 実績値 (H20) | 単位 | 取得方法 | 指標取得 主管課・係 | 算定式・取得先等 | 基本事業の成果水準とその背景 | 基本事業の成果実績に対してのこれまでの 主な取り組み(事務事業)の実績 |
|------------|-------|---|----------------------------|----------------------------|---|-----------|-----------|-----------|-----------|----|------|---------------|--|--|--|
| 1 国際交流の推進 | 活力推進課 | 市民 市内に在住 する外国人 来訪外国人 姉妹都市 関連市民団 体 | 人口 在住外国人 の数 姉妹都市数 | 交流して異文 化を理解して共生 できる | 国際交流事業で 外国文化を学習・ 体験した市民の数 | 82 | 173 | 206 | 282 | 人 | 業務取得 | 活力推進課 | ・国際交流協会の事業参加者を 把握する。 | ・本市に在住する外国人は10カ国286人であり、そのうちの約74%が中 国からの水産加工技術等の研修生である。 国際交流事業で外国文化を学習・体験した市民の数は、19年度が 206人、20年度が282人であった。 平成20年度には「Let's Have Fun!一緒に楽しむ」や「Let's Have party2009」などの在住外国人やJICA研修生との交流イベントを 実施するなど、交流事業で外国文化を学習・体験した市民の数は282名 となった。 外国人と交流していると答えた市民の割合は、19年度が4.0%、20年 度が4.7%と0.7ポイント増加した。 在住外国人との交流イベントへの参加者は、児童を中心にわずかで はあるが増加傾向にある。 | 主な事務事業は以下のとおり ・大船渡市国際交流協会運営支援事業 ・協会事務局として、国際理解講座、市内在住外 国人や一時滞在外国人との交流イベント等の事業 実施を支援している。 |
| 2 都市間交流の推進 | 活力推進課 | 市民 来訪者 交流都市 | 人口 交流都市の 数 | 視野を広げ文 化的・経済的活動 に生かす | 都市間交流事業 に参加した市民の 数 外国人と交流し ていると答えた市 民の割合 | 432 | 545 | 555 | 378 | 人 | 業務取得 | 活力推進課 | ・最上町との経済交流、銀河連 邦との児童・経済交流、相模原 市からのマラソン大会交流、グ リーンツーリズム交流、産業まつ りの経済交流等、活力推進課で 把握できる事業参加者数を合算 する。 | ・都市間交流事業に参加した市民の数は、19年度が555人、20年度378 人であった。 継続して実施していた最上町との児童交流が平成19年度で終了した ことにより、事業に携わっていた関係者の交流人口が減少したことによ る。 経済交流を行っている自治体数は、17年度が2団体、18年度が5団 体、19年度が5団体、20年度が5団体となっている。 銀河連邦及び最上町との物産展相互開催を中心とした経済交流が継 続実施されている。今後は民間も交えたさらなる交流促進に努める必要 がある。 | 主な事務事業は以下のとおり ・北里大学海洋生命科学部連携交流推進事業 市と学部及び市と学生との各種意見交換会の 開催、体験実習の実施協力、学生の地域活動 に関する支援、大学及び学生の活動を市民へP R、環境整備に関する各関係機関への要望、 三陸の恵みふれあい体験会の実施、卒業生へ の記念品贈呈、海フェスタ協賛事業「北里大学海 洋生命科学部特別企画展」の実施 ・銀河連邦サンリクオオファナ共和国運営支援事業 銀河連邦新国民歓迎交流会、銀河連邦子 ども留学、サガミハラ共和国子ども特使受入、 銀河連邦フォーラム、大船渡市ボートサイド女子 マラソン大会選手団受入、銀河連邦共和国物 産展等対応 |